

子どもたちの心のケアについて

～学年末に向けて心がけたいこと～

東日本大震災からもうすぐ一年となります。日常の子どもの指導だけでなく、転出入事務、子どもの心のケア等、大変な一年だったことと思います。お忙しい毎日だと思いますが、学年末に向けて心がけたいことをもう一度考えてみたいと思います。

- 1 次年度につながる学習のまとめ
 - ・ 指導計画にやり残しのないよう学習を進めましょう。
 - ・ 自信をもって進級できるよう、一年間の学習内容を確認させましょう。
- 2 子どもを認めよう
 - ・ この一年間でできるようになったこと、頑張ったことをたくさん認め、ほめてあげましょう。
- 3 生徒指導との連携を
 - ・ 阪神大震災の翌年、非行が増大したケースがありました。次年度に向けて生徒指導の連携を深めましょう。
- 4 中学3年生は、Ⅱ期選抜に向けて
 - ・ 体調は完全に。学校では、うがい・手洗い・マスクを。
 - ・ 対話を多く。何気ない教員との会話が心を和ませます。
- 5 卒業・進級に向けて感謝の気持ちを
 - ・ 他者とのかかわりから、優しさを感じるによって感謝の気持ちを育てることもできます。
 - ・ 感謝の形の表し方も伝えてあげたいものです。
- 6 夢や希望を
 - ・ 夢や希望、目標が生きる力となります。小さな目標も大きな夢も大事にさせていきましょう。

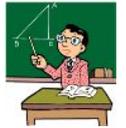
そして、先生方。この一年間で自分でもわからないストレスや疲れがたくさんたまっているのではないのでしょうか。子どもたちを大切にすることはもちろんですが、ご自身も夢や希望をもって次年度に進めるような年度末をお過ごしできますように…

参考・心の復興を目指した子どもの心のケア



授業づくりのヒント

授業力向上講座Ⅲでは、「思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫」という内容で、筑波大学附属小・中学校の先生をお迎えし、講義・演習を行いました。その中から、授業づくりのヒントをいくつかご紹介しましょう。



- ◆ 子ども同士を真剣に関わらせるための条件
 - 本気にさせる課題や活動を仕組むこと。
 - 「表現する場」や「自分なりの解釈をする場」を設定し、一人ひとりが「独創性」を発揮する場を仕組むこと。
 - 「学習用語」など基本的な知識や技能を共有させ、共通の土俵をつくるなど、知識の共有化を図ること。
 - 「教える」ことを恐れない。
 - 子ども自身が「一般化」して理解できるところまでを授業の中で保障し、「～の仕方」を子ども自身に意識させること。
 - つながりを意識した単元構想や年間構想、前後の学年を見通した授業を仕組むこと。
 - 集団で学ぶ良さ・楽しさの実感をする場を設定すること。
 - ◆ 思考、論理を引き出すポイント
 - 先生から答えを言ったら、子どもの思考は途切れてしまう。一番いいことは子どもから出させること。
 - 答えに自信のある子どもは、必ず、「だって」とか「なぜなら」と論理を続けるようになる。だから、子どもの答えに、すぐ「そうだね。」と言わずに「えっ!？」「本当!？」など、疑問符をつけること。
- 「授業力講座等の講義を校内研修で活用したい。」という場合など、ご連絡ください。DVDを貸し出します!

「教育実践研究発表大会」感想より

～教育復興シンポジウム、大会全体～

- これまで先生方が取り組んできたことを、分かち合い、つなぐことのできた内容でした。「子どもが一番大切だ」ということを具体的な様々な事例より、再確認することができました。また、教育公務員としての精神に、改めて気づき、先生方と一体となって頑張ろうという気持ちになりました。
- 生徒たちの力強い発表に感動しました。私たちは可能性を秘めている生徒たちに日々向き合うことのできる素晴らしい仕事に携わっているんだと改めて感じる事ができました。
- 行政、校長、教職員、児童生徒、それぞれの立場から復興への「思いをつなぐ」ことの確認ができてました。
- 今日のシンポジウムを通して、これからさらに復興のために自分にできることをしていかなければという思いが強くなりました。



演劇活動をとおしたコミュニケーション能力向上講座感想より

- 普段話していることばを意識化させ、文字化させ有効化させていくこと、しゃべらない、いない、ということも表現の一つ、対話、冗長率、合意形成能力人間関係形成能力育成など、たくさんのカギをいただきました。
- 社会の中で必要な能力を、社会の変化に応じてつけてあげることが教育の役割であるという言葉が印象に残りました。

冗長率ってなあに？

文章、あるいは一つ一つの文の中に、意味や情報の伝達とは直接関係ない語句や音(「えーと」とか「あー」等)がどれだけ含まれているかを示す数値。